

宮崎みなとまつり2017



帆船「日本丸」の岸壁で帆を張るセイルドリルや宮崎海洋高校の実習船「進洋丸」の一般公開を実施します。このほか魚介類をモチーフにしたプロレスラーが登場する「海鮮プロレス」や、海の幸を使用した「食」のイベント、体験航海など盛りだくさんの内容です。詳しくは、「宮崎みなとまつり2017」ホームページをご確認ください。

□日時／5月5日(金・祝日)10時～18時
□場所／宮崎港(国際観光船バース・みやざき臨海公園)
※天候や波の状況によっては中止となるイベントもあります。

【問】宮崎みなとまつり事務局(☎51-5899、FAX53-8922)
または企画政策課(☎21-1711、FAX31-6557)

宮崎市まごころ工芸展

伝統を引き継ぎながら、新しい作品づくりに挑戦している市内工芸品作家の逸品を、実演・展示販売します。昨年に続きブーゲンビリアをテーマにした新作もあります。ぜひご来場ください。

【出品目】ガラス製品、人形、山桜小木工、陶磁器、七宝焼、ペイント、布小物など。



□日時／4月11日(火)～24日(月)8時30分～19時(最終日は15時まで)
□場所／宮崎ブーゲンビリア空港 1階オアシス広場

【問】宮崎県特産工芸品協会 ☎27-8491、FAX28-6572
または工業政策課 ☎21-1793、FAX28-6572

みやざき国際ストリート音楽祭2017

「宮崎には音楽の咲く季節がある」をテーマに、第22回宮崎国際音楽祭に出演するマリンバ奏者の塚越慎子さんと尺八奏者の辻本好美さんによるスペシャルセッションをはじめ、県内外のプロ・アマ演奏者が、橋通りをメインステージに華麗な演奏を披露します。ぜひ、屋外での生演奏をお楽しみください。



□日時／4月29日(土・祝日)13時～18時30分
□場所／橋通り(歩行者天国)
※雨天時は、宮崎市民プラザなど屋内で行います。

【問】実行委員会事務局(みやざきアートセンター内)
☎22-3115、FAX22-3116

食フェスタ in みやざき 2017



食をテーマに、みやざきの農林水産物の魅力を発信するイベントを開催します。農林水産物やその加工品の販売、寄せ植えなどの体験コーナー、海の幸・山の幸が堪能できるグルメコーナーなど、子どもから大人まで楽しめる催しが盛りだくさんです。ぜひ会場にお越しください。

□日時／5月13日(土)・14日(日)9時～16時
□場所／宮崎市生目の杜運動公園

【問】農業振興課 ☎21-1781、FAX21-1786

軽 いフットワークで意表をついたショットにも素早く反応し、鋭いスマッシュを打ち込む長峰さん。部活動の練習後は、別のバドミントンクラブの練習に参加。さらには自宅でもトレーニングを行うなど、練習に余念がありません。「体面課題があるので、それを克服するため練習をしています。試合はもちろん、普段

の練習から全力で臨んでいます」
長峰さんがそれだけ熱心に練習に励むのには、中学時代の出来事が影響しているそうです。「試合での成績が伸び悩んでいた中学3年生の時、クラブの先輩から、高校でのよりレベルの高いプレーの話や、アドバイスを聞いたんです。おかげで早く先輩に追いつきたいと強く

今年で3年生になった長峰さんは、最後の出場となるインターハイへの意気込みを話します。「次こそ、全国のトップレベルの選手との対戦を勝ち抜いて優勝したいです」。悲願達成に向け、練習にはさらに熱が入ります。



Catch your Dream!
夢をつかめ! トップレベルの選手が集まる全国の舞台
次こそは必ず優勝したい!

Dream 36 **長峰 善**さん
日章学園高等学校

Profile

高校3年生。姉の影響で小学1年生からバドミントンを始め、現在は部のキャプテンを務める。平成28年に出場したインターハイで全国5位。

動画はココから



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。

市長コラム



ねこのひげ日記

住居や仕事に関する部署との連携を強化するため、市役所第2庁舎(3階)に移転しました!



移住・定住の促進に向けて

春爛漫、人生の転機となる旅立ちや出会いの季節ですね。期待を胸に新生活を始める方も多いのではないのでしょうか。さて、国が公表した昨年1年間の人口移動報告で、宮崎市は転入者が転入者を約千人上回り、少子化とも相まって人口減少が拡大しました。特に、高校生の県内就職率は54.8%と2年連続で全国最下位となり、宮崎の未来を担う若者の流出が顕著です。

そこで「宮崎に住みたい、住み続けたい」と思っただけの魅力あるまちづくりを進めるために、さまざまな事業展開が必要と考えております。まずは、意欲を持って働ける就業の場を拡充させる

とともに、安心して暮らせるよう医療・福祉の充実を図ります。また、自然を生かしたライフスタイルを満喫できるなど、大都市圏にはない本市の魅力を発信し、若者の地元定着はもちろん、移住も促進していきます。

そのような中、移住希望者の相談窓口となる「宮崎市移住センター」には多くの相談が寄せられています。開設してから1年間で、ゆとりある生活を求める方などが27世帯(46人)移住され、本市で新生活を始めています。地方創生を推進する今、宮崎で活躍し将来を担っていく意欲ある方々に積極的に寄り添ってまいります。



※コラムタイトルは戸敷市長の「宮崎市版・365日誕生花」であるネコノヒゲ(8月31日)にちなんだものです。